

## 平成 27 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 28年 04月 07日

研究・研修課題名	X線CT認定技師認定試験受験
研究・研修組織名（所属）	診療放射線技師のスキルアップ
研究・研修責任者名（所属）	放射線部 山本泰司
共同研究・研修者名（所属）	放射線部 中島寛人

### 目的及び方法、成果の内容

#### ①目 的

昨年度、X線CT認定技師の受験資格とされている特定非営利活動法人日本X線CT専門技師認定機構が行う講習会を受講し、受験資格を得たため、今年度行われる日本X線CT認定技師認定試験を受験する。

#### ②方 法

特定非営利活動法人日本X線CT専門技師認定機構が行う試験を受験する。(平成28年2月7日(日) 県立広島病院)

#### ③成 果

日本のX線CT装置保有台数は、現時点で世界第一位であり、全世界の装置数の約30%を占めている。また、近年X線CT装置の進歩は著しく、短時間で全身にわたる検査を容易にし、以前は困難であった心臓や消化管の検査なども可能となり、現代の医療にとって必要不可欠の検査となっている。しかし、現状ではCTの検査方法は施設によって様々であり、必ずしも根拠に基づく撮影が行われていない場合もある。これらの問題を改善するためには、X線CT装置の進歩に対し、技術の複雑化への対応や被ばく線量の管理など専門性・安全性の担保が必要となる。また、患者様の疾患や治療法などに合わせて最適な検査をする為の専門的な知識も必要となる。さらに、CTに関わる新しい技術の有効性などを評価し、専門技術を広く一般の医療現場へ普及させることも重要となる。

特定非営利活動法人日本X線CT専門技師認定機構が行うX線CTの専門制度の普及により、標準医療に対応した画像情報を提供し、専門的な撮影技術の普及実践が可能となり、適切で有益な画像情報の提供ができる。また、現状ではX線CT検査件数は医療現場の放射線を使用した検査件数の5%程度だが、患者に与える被ばくを実効線量換算するとX線CTの被ばくの占める割合が35%にもなっている(国際放射線防護委員会勧告より)ことから考えて、X線CT検査で適切な被ばく低減措置を行うことは、医療全体の患者被ばくの低減に貢献できると考える。加えて、関連学会等と連携し、最先端の医療技術に対応した検査技術の開発・検証・普及・安全を担保することで、X線CT検査の質の

向上につながり、医療に対する国民の満足と安心に貢献し、福祉と社会の発展に寄与することができる。

尚、平成 28 年 2 月 7 日（日）県立広島病院にて行われた第 5 回 X 線 CT 認定技師認定試験を受験し、合格した。

\* 特定非営利活動法人 日本 X 線 C T 専門技師認定機構  
X 線 C T 認定技師 認定証 受領済 【2016 年 4 月 1 日】